

シンガポールの小学校芸術科音楽教科書における創作活動に関する研究

森 山 実 華

(本講座大学院博士課程前期在学)

伊 藤 真

(本学大学院教育学研究科)

Creative Activities in Music Textbooks for Primary Schools in Singapore

Mika MORIYAMA Shin ITO

Abstract

This study aimed to examine the contents and learning methods related to creative activities in music textbooks for primary schools in Singapore. The descriptions of creative activities were extracted from the music textbook *Perfect Match Music* (2008, 2009), and the extracted information was analyzed. The findings were as follows. First, creative activities were involved in about 60% of all the units in that textbook. Creative activities related to singing, playing instruments, and listening played an important role in learning music. Second, creative activities were used as the means for learning musical content, such as musical elements and forms, rather than being directed at musical composition. As well as musical content, creative activities also provided a cross-cultural understanding with respect to world music. Third, creative activities were organized more systematically in higher grades. At the preliminary level, the focus was on learning musical rhythms using words and sound making. At the next level, the learning content developed in terms of making rhythm patterns or melodies and using the framework of musical forms, such as call and response.

はじめに

1990年代後半からシンガポール共和国の教育は新たな変革期を迎え、国としての生き残りをかけて教育政策の転換に着手した。数々の教育改革のもと、これからの激変する社会に対応し、世界で生き残っていくことのできる子どもの育成を目指しており、これらの教育政策によって、PISAやTIMMSなどの国際的な学力調査において近年著しく高い成績を収めている。

日本の学習指導要領に相当するシラバスは、教育省が策定、発行しており、小・中学校芸術科音楽のシラバスは2008年に改訂された。この中では、音楽教育の目的を、芸術に関して教養のある人間の育成、独創的な自己表現の獲得、生涯を通して新たな音楽との関係を築くための基礎づくりと示している。また、音楽教育のねらいから、基礎的な音楽能力の育成を通して、異文化理解や日常生活における音楽の役割の理解が目指されている。音楽そのものを学ぶことを土台として、音楽を文化や社会と結びつけて学習することが求められており、多民族国家というシンガポールの国情が大きく反映されたものとなっている。このようなシラバスのねらいを、教科書ではどのように達成しようとしているのであろうか。

そこで本稿では、シンガポールの小学校芸術科音楽の教科書 *Perfect Match Music* (2008, 2009) Primary 1～6を対象に、創作活動の内容と学習方法の特徴を明らかにすることを目的とする。

1. シンガポールの教育制度の概要¹⁾

シンガポールにおける義務教育は、初等教育段階の小学校(6年制)に限定される。前期中等教育段階

は、大学前教育に接続する中学校と職業コースに分岐し、後期中等教育段階も含めて有償となる。また、シンガポールの学校教育は試験の成績によって学校やコースが決まる「ストリーム制」を導入している。

音楽は、美術とともに芸術科の1つとして位置づけられており、小学校、および中学校のはじめの2年間は必修科目として設定されている。しかし、中学校の残りの2～3年間は、特別コース²⁾や特進コースが選択科目であるのに対し、普通学術コース、および普通技術コースには設定されていない。

シンガポールの教育制度を図式化したものが図1である。

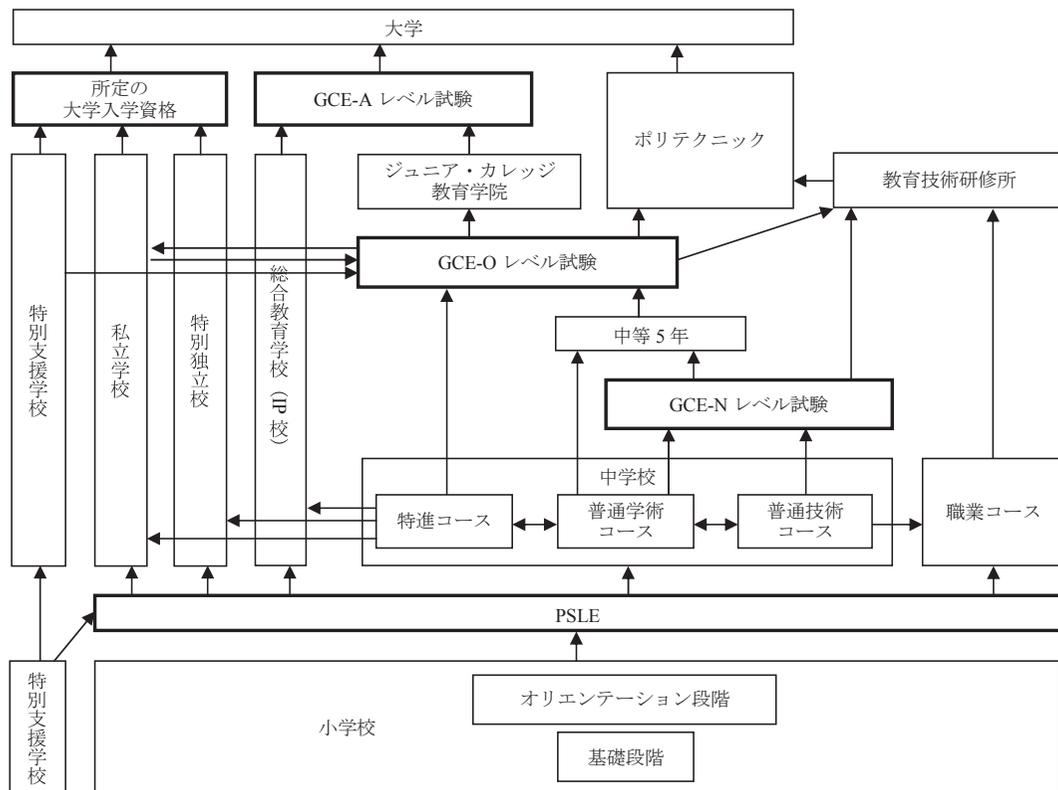


図1 シンガポールにおける教育制度
(出典：シンガポール教育省)

2. シンガポールの2008年改訂小・中学校芸術科音楽のシラバスの概要

本シラバスにおける小・中学校音楽科の「ねらい」(Aims)は、以下のとおりである。

- ・様々な文化の音楽に対する認識を深め、それらのよさに気づくとともに、日常生活における音楽の役割を理解する。
- ・音楽活動を通して、創造的な表現力を育成する。
- ・音楽に関する教養を深め、音楽と生涯かかわっていくための基礎を養う。

また、上記3つのねらいを達成するため、児童・生徒が身につけるべき音楽の技能や知識として、以下に記す6つの「領域」(Objectives)でシラバスが構成されている。

- ①個人やグループで、歌ったり、旋律楽器や打楽器を演奏したりする。(歌唱・器楽)
- ②音楽創作や即興をする。(創作・即興)
- ③音楽を聴取し、それを批評したりその価値を見極めたりする。(聴取・批評)
- ④音楽の要素や概念の理解を深める。(音楽の要素や概念)
- ⑤様々な文化やジャンルの音楽を、聴き分けたり理解したりする。(異文化理解)
- ⑥日常生活における音楽の役割を理解する。(日常生活における音楽の役割)

括弧内筆者

3. シンガポールの小学校芸術科音楽教科書の概要

分析対象とする音楽教科書 *Perfect Match Music* (Primary 1～6) のうち、Primary 1 から Primary 4 は 2008 年に、Primary 5 および Primary 6 は 2009 年に出版された。

本教科書全体の特徴として、まず、オルフとコダーイのメソッドに基づいて制作されていることが挙げられる。これは、階名やハンドサイン、リズムシラブルの使用、移動ド唱法、身体を使った音楽表現など、教科書に示されている学習方法のいたるところに垣間見える。

構造の特徴としては、1つのユニットまたはトピックの中で、創作・鑑賞・演奏の3領域が相互に関連していることが挙げられる。それぞれのユニットやトピックには主となる領域の活動が設定されているが、鑑賞活動を主としながら最後に歌唱を取り入れたり、歌唱活動を主としながら最後にリズム創作をするなど、必ず2つ以上の領域が組み込まれている。また、ユニットごとに評価表が掲載されているという点も特徴である。この評価表では、自己評価だけでなく、友達のパフォーマンスを評価したり、反対に、自分のパフォーマンスを友達に評価してもらうこともある。

また、本教科書とリンクした E-book が活用され、IT の積極的な活用が図られている。E-book は、主に創作・作曲の活動や、参考資料として映像を見る際に用いられる。

4. シンガポールの小学校芸術科音楽教科書 *Perfect Match Music* における創作活動

まず、学年ごと、および6学年全体における創作活動が含まれるユニットの割合を示したものが表1である。創作活動が含まれるユニットの割合は全体で57.8%であった。

表1 創作活動が含まれるユニットの割合

	全ユニット数	創作活動が含まれる ユニット数	創作活動が含まれる ユニットの割合
第1学年	8	5	62.5%
第2学年	8	5	62.5%
第3学年	8	4	50.0%
第4学年	7	4	57.1%
第5学年	7	5	71.4%
第6学年	7	3	42.9%
合計	45	26	57.8%

次に、第1学年から第6学年までの創作活動を、学習内容と学習方法の観点から整理したものが表2である。なお、学習内容を→で示した。

表2 創作活動の内容と学習方法

第1学年

【Unit 3】Rhythm is Fun!

- ・与えられたリズムに合う言葉を考える。
→言葉を通したリズムの学習
- ・オスティナート伴奏の創作。One Little Finger, $\frac{4}{4}$, 1小節, , 手拍子。
→リズムや拍子の学習

【Unit 5】The Right Dynamics

- ・巨人と小人の足音を、バスドラム、シンバル、タンバリン、マラカス、ウッドブロックの中から選んでつくる。
→強弱、音色の学習
イメージと音や楽器の特徴の結合

【Unit 6】The Animal Concert

- ・動物を打楽器や身の回りのものを用いて表現する。
→スタッカート、レガート、音の高低・大小・速度の学習
イメージと音や楽器の特徴の結合

【Unit 7】Swinging Moods

- ・オスティナート伴奏の創作。The Muffin Man, $\frac{4}{4}$, 1小節, , 打楽器。
→曲の雰囲気学習

【Unit 8】Painting Pictures with Sounds

- ・物語の各場面を表す音をつくる。
→図形譜の学習
イメージと音や楽器の特徴の結合

第2学年

【Unit 2】Moving Poems

- ・“The Little Frog”という詩にリズムをつくる。 
→言葉を通したリズムの学習
言葉のリズムに基づくリズム創作

【Unit 5】Moods and Rhythms

- ・リズムに言葉（歌詞）をつける。
→言葉を通したリズムの学習

【Unit 6】Music is Everywhere

- ・与えられた旋律のリズムを変化させ、場面に合った音楽をつくる（場面に合うように音楽を編曲する）。
→音楽と日常生活との関係、場面と音楽の関係の学習

【Unit 7】Call and Response

- ・Call and Responseの「答え」をつくる。
 - ① 応答唱
 - ② 模倣ではない Call and Response
 - ◆ リズムのみ 
 - ◆ リズム + 音高 、問いと同じリズムに異なる音高がついている。
 - ③ Call and Responseを利用して、与えられたリズムに音高をつける
 - ◆ 音高のみ 、1題目は終止音に制限あり（doh）、2題目は制限なし。
 - ④ Call and Responseを利用して、答えをつくる
 - ◆ リズム + 音高 + 言葉 、リズムは2小節目（終止）に制限あり（||）。
→ Call and Responseを用いたフレーズ創作の学習

【Unit 8】The Magic of Sound

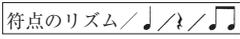
- ・与えられた場面を、打楽器を用いて表現する。
- ・“Toy Party”という物語について、登場人物に楽器を当てはめ、各場面の様子を表す効果音をつくる。
→効果音、図形譜の学習

第3学年

【Unit 1】The Charm of Music

- ・手拍子や指鳴らしを用いて雨の音を表現する。

【Unit 2】Folk Songs for Children

- ・オスティナート伴奏の創作。Doraemon, $\frac{4}{4}$, 2小節, , 打楽器。
→子どもの歌の学習

【Unit 3】I Love the Recorder

- ・与えられたリズムに基づく旋律創作。 , 音はG・A・Bのみ、終止音はGと指定。
→リコーダーの運指の学習

【Unit 8】Space Adventures!

- ・楽器を組み合わせて、“Space Adventures!”という物語の場面を表現する音楽をつくる。
→テンポや強弱の変化の学習

第4学年

[Unit 1] The Carnival of Rhythms

- ・オスティナート伴奏の創作。Rasa Sayang Eh (マレーの伝統音楽), $\frac{4}{4}$, 2小節, リズムの制限なし, 非旋律打楽器。
→リズムや拍子の学習

[Unit 3] Music from Korea and Japan

- ・韓国の五音音階 (doh, ray, me, soh, lah) を使用し, 与えられたリズムを用いて Doraji に対旋律をつくり, リコーダーで演奏する。
- ・韓国の五音音階または日本の五音音階 (doh, me, fah, lah, ti) を用いた旋律創作。 $\frac{3}{4}$ または $\frac{4}{4}$, リズムパターン (Arirang や Doraji, Sakura で使用されているもの) の提示有り。
→韓国や日本の音楽, 五音音階の学習

[Unit 4] Indonesian and Filipino Music

- ・リズム伴奏創作。Bengawan Solo (ジャワ島の音楽), $\frac{4}{4}$, リズムパターンなし (オスティナートの指定なし), 非旋律楽器。
- ・オスティナート伴奏の創作。Planting Rice (フィリピンの民謡), $\frac{2}{4}$, 2小節, リズムの制限なし, 打楽器。
→インドネシアやフィリピンの音楽の学習

[Unit 7] Forms and Repetitions

- ・自分の描いた絵を表す8小節の旋律創作。 $\frac{4}{4}$, 冒頭1小節の旋律提示有り, 少なくとも2回は反復すること, 2部形式または3部形式の形をとること。
→形式や反復の学習

第5学年

[Unit 1] Making Melodies

- ・1小節から2小節の旋律変奏。①繰り返し, ②音高のみ変更, ③リズムのみ変更の3つのパターンでつくる。
- ・それぞれ4小節ずつの前奏・間奏・後奏の創作。なお, 前奏のはじめの2小節と間奏のおわり2小節は与えられている。
→旋律変奏や前奏・間奏・後奏の学習

[Unit 2] Songs from Eastern Europe

- ・オスティナート伴奏の創作。2部形式の曲 Dance with Vigour (ウクライナ民謡) に A と B の2種類のオスティナートリズムをつくる。 $\frac{2}{4}$, 2小節, リズムパターンの提示有り, A・Bそれぞれ1小節は提示有り, 打楽器。
→東ヨーロッパの音楽, 2部形式・3部形式の学習

[Unit 3] Let's Sing Together!

- ・オスティナート伴奏の創作。Music Alone Shall Live (デンマークの音楽), $\frac{3}{4}$, 4小節, リズムの制限なし, はじめの2小節は与えられている, 打楽器。
- ・オスティナート伴奏の創作。London Bridge, Pease Pudding Hot, Mary Had a Little Lamp (パートナーソング), $\frac{2}{4}$, 4小節, リズムの制限なし, はじめの2小節は与えられている, 楽器の制限なし。
→合唱形態 (カノン, パートナーソング), リズム伴奏の学習

[Unit 5] Chinese Musical Instruments

- ・オスティナート伴奏の創作。風陽花鼓 (中国の民謡), $\frac{4}{4}$, 2小節, リズムの制限なし, 打楽器。2種のリズムパターンをつくるが, 1つ目ははじめの1小節が与えられている。
→中国の音楽の学習

[Unit 6] Body Percussion

- ・ボディパーカッションでのリズム創作。
 - ①手と足の2パート, $\frac{4}{4}$, 4小節, リズムの制限なし。
 - ②“Singapore, the food paradise”をテーマに詩をつくり, ボディパーカッションやヴォイスパーカッションをつける。制限なし。
→ボディパーカッションの学習

第6学年

[Unit 2] Music and Videos

- ・“Love the Nature Park”という映像に合ったBGM (旋律) の創作。 $\frac{4}{4}$, 12小節, 楽器の制限なし。はじめの4小節は与えられており, リズムのみ変えたり, 音高のみ変えたりしてつくる。
また, 声や楽器, 身の回りにあるものなどを使って, 効果音をつくる。
- ・遊園地のCMに合った音楽や効果音の創作。既成の音楽や効果音を選択・組み合わせても良いし, 自分でつくっても良い。
→映像と音楽の関係, 音楽の効果の学習

[Unit 3] Musical Movements

- ・与えられた主題から変奏曲をつくる。ハイドンのドイツ舞曲, $\frac{3}{4}$, 8小節, リコーダー。
 - ①リズムのみ変える。2小節を1まとまりとし, 3回は同じリズムを繰り返す。2小節のリズムパターンが2つ例示されている。
 - ②テンポのみ変える。Allegro, Moderato, Lento から選ぶ。
 - ③自由に変奏する。
→音楽の形式 (2部形式・3部形式・ロンド・主題と変奏) の学習

[Unit 5] African Music

- ・オスティナート伴奏の創作。Count on Me Singapore (シンガポールのナショナルソング), $\frac{4}{4}$, 2小節, リズムの制限なし, 打楽器。
→アフリカの音楽, Call and Response の学習

下学年での創作活動は、①リズム・旋律創作の学習と、②事物のイメージと音・楽器の特徴とを結びつけた音づくりの学習の2つに大別できる。

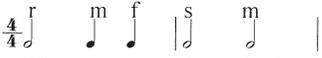
①リズム・旋律創作の学習はさらに2段階から成る。第1段階は、創作の準備としてのリズム学習である。ここでは言葉との関わりを意識した学習が行われており、言葉のリズムを感じ取る、言葉のリズムに音符を当てはめるなどの、言葉からリズムへという流れ（第2学年 Unit 2）と、リズムに言葉を当てはめるなどの、リズムから言葉へという流れ（第1学年 Unit 3, 第2学年 Unit 5）の、双方向での学習が進められている。

第2段階は、Call and Responseによるフレーズ創作の学習であり、第2学年 Unit 7において重点的に行われる。まず、「The Rabbit and The Panda」を応答唱し、Call and Responseの雰囲気を感じ取る。次に、模倣ではないCall and Responseを行う。指定された問いのリズムに対して指定された答えのリズムを返す（譜例1）。また、指定された問いの旋律に対して指定された答えの旋律を歌う（譜例2）。さらに、指定されたリズムに音高をつけて答えをつくる（譜例3）。最終的に、これらの総まとめとして、問いのフレーズに対する答えをつくる手段（リズムをつくる→音高をつける→歌詞をつける）を確認し、オリジナルの答えを創作する（譜例4）。このように、Call and Responseの手法を用いて段階的にフレーズ展開の方法を学習させており、これが以降の旋律創作の基礎となっている。

譜例1 

譜例2 

譜例3 

譜例4 

What are you do - ing?



②音づくりの学習では、音の高低や強弱、レガート・スタッカート、楽器の音色などの音楽の諸要素に着目して、動物や登場人物の様子や、物語の各場面を表す音づくりが行われる（第1学年 Unit 5・6・8, 第2学年 Unit 8, 第3学年 Unit 1）。第2学年 Unit 8では、「Toy Party」という全6場面から成る物語を、打楽器を用いて効果音をつくり、各場面の様子を表現するという学習が設定されている。また、その際には、つくった効果音を図形譜を用いて記譜するように指示されている。第3学年のUnit 8になると、6つのパートに分かれて旋律や効果音をつくり、宇宙探検の音楽をつくることが求められており、それまで「音づくり」であったものが「音楽づくり」に発展している。

上学年では、下学年で学習したリズムや音楽の諸要素などに加え、韓国や日本の五音音階（第4学年 Unit 3）（譜例5）や、2部形式や3部形式・反復（第4学年 Unit 7）、変奏（第5学年 Unit 1, 第6学年 Unit 2・3）などの音楽の形式を生かした旋律創作が行われるようになる。旋律創作には、リズムと音高のどちらかが与えられ、もう片方を操作する場合と、リズムと音高の両方を操作する場合がある。

これらに加え、Call and Responseに重点が置かれた第2学年をのぞく全学年にわたってリズム伴奏の創作が行われており、その内容は、オスティナート伴奏の創作と、制限が与えられていない自由なリズム伴奏の創作（第4学年 Unit 4）の2つに大別できる。表3はオスティナート伴奏の創作に関わる学習をまとめたものである。

使用するリズムに関して、下学年では制限が与えられているが、上学年になると制限が与えられなくなる。しかし、制限がないからといって自由につくってよいというわけではなく、教材曲にふさわしいものをつくる必要がある。ここで言う「ふさわしいもの」とは、楽曲の雰囲気にあったリズム伴奏のことを指し、それは曲中で使用されているリズムパターンを用いたりすることによって達成される。つまり、下学年ではリズムを制限することによって自然に楽曲に合ったオスティナート伴奏がつけられるような配慮がなされており、上学年では制限がなくても曲の雰囲気に応じた

譜例5

韓国の五音音階 

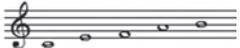
日本の五音音階 

表3 オスティナート伴奏の創作

学年	教材曲	拍子	小節数	リズムの制限	楽器等の制限
1	One Little Finger (イギリス民謡)	$\frac{4}{4}$	1小節	$\text{♪} / \text{♪♪} / \text{♪}$	手拍子
	The Muffin Man (アメリカ民謡)	$\frac{4}{4}$	1小節	$\text{♪} / \text{♪♪} / \text{♪}$	打楽器
3	Doraemon	$\frac{4}{4}$	2小節	符点のリズム $\text{♪} / \text{♪} / \text{♪}$	打楽器
4	Rasa Sayang Eh (マレーの伝統音楽)	$\frac{4}{4}$	2小節	制限なし	非旋律打楽器
	Planting Rice (フィリピン民謡)	$\frac{2}{4}$	2小節	制限なし	打楽器
5	Dance with Vigour (ウクライナ民謡)	$\frac{2}{4}$	2小節	リズムパターンから選ぶ。 1小節は与えられている。	打楽器
	Music Alone Shall Live (デンマークの音楽)	$\frac{3}{4}$	4小節	制限なし。 はじめの2小節は与えられている。	打楽器
	London Bridge Pease Pudding Hot Mary Had a Little Lamp (パートナーソング)	$\frac{2}{4}$	4小節	制限なし。 はじめの2小節は与えられている。	制限なし
	風陽花鼓 (中国の民謡)	$\frac{4}{4}$	2小節	制限なし。 2つのうち1つははじめの1小節が 与えられている。	打楽器
6	Count on Me Singapore (ナショナルソング)	$\frac{4}{4}$	2小節	制限なし	打楽器

オスティナート伴奏を自分で考えて創作することを目指していることが分かる。このように、学年段階に沿って発展的に学習が組織されている。

5. シンガポールの小学校芸術科音楽教科書 *Perfect Match Music* における創作活動の特徴

本教科書における創作活動の特徴として、以下の3点が挙げられる。

第1に、教科書を構成する全ユニットの約6割に創作活動が関係しているという点である。他の領域と関連しながら創作活動が取り入れられていることから、音楽の学習を進める上で重要な学習方法として位置づいていることが分かる。

このことと関連して、第2に、創作活動が創作そのものを目的として行われるのではなく、音楽の諸要素や形式などを学習するための手段として行われている点である。また、音楽の諸要素や形式などは、音楽そのものに目を向けさせようとしているものであるが、オスティナート伴奏を創作する際に世界各地の民謡を教材として扱ったり、第4学年でアジアの音楽を扱ったりするなど、諸民族の音楽を特徴づける音楽の諸要素（特に、リズムや音階、形式など）に着目した活動も設定されており、創作活動を通して異文化理解を目指していることもうかがえる。

第3に、言葉と関わらせたリズム学習や音づくりを行う準備的段階から、リズム創作、Call and Response や形式などの手法を用いた旋律創作を行う段階へと、学年を追って系統性のある学習が構成されている点である。

おわりに

本稿で分析を行った教科書 *Perfect Match Music* では、創作活動が音楽学習全般に大きな役割を果たしており、創作活動を通して、音楽そのものの学習や音楽を取り巻く文化の学習が行われていることが明らかとなった。これは、多民族国家であるシンガポールの国情が大きく反映されたものであるといえる。

これらの学習は学年を追って段階的に進むが、その高みは第6学年で行われている内容と捉えられる。それは、リズムのみの創作や旋律変奏など、音楽の諸要素を部分的に操作することに終始しており、音楽

のすべての諸要素を子どもが自分自身でコントロールしてまとめた音楽をつくるという段階の域にまでは達していない。このことに関してシラバスでは、第1学年から第4学年にあたる Stage 1 と、第5・6学年にあたる Stage 2 の創作・即興領域における到達目標も、音づくりやリズムパターン・旋律パターンの創作などにとどまっており、いわゆる音楽づくりは Stage 3 以降（中学校）での学習内容として設定されている。このことから、本教科書はシラバスと大きく関連していることが分かった。

本教科書は、複数の学習領域を相互に関連づけて学習が進められるという大きな特徴をもっている。したがって、音楽学習の中で創作活動が他の学習領域とどのように関わりをもっているかをさらに精査することが必要である。

付記：本稿は、平成26年7月5日に開催された日本学校音楽教育実践学会第7回中国支部例会での口述発表をもとに、加筆修正したものである。

註

- 1) シンガポールの教育制度の詳細については、財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所ウェブサイト、および神代（2011）を参照のこと。
- 2) 2008年以前は、特別、特進、普通学術、普通技術の4つのコースに分かれていたが、このうち特別コースと特進コースが「特進コース」として統合され、2008年1月の入学生から適用された。

引用・参考文献

- ・ Curriculum Planning & Development Division, Ministry of Education Singapore (2008) *2008 General Music Programme Syllabus (Primary & Secondary)*.
- ・ 神代浩 [研究代表者] (2011) 『教育課程の編成に関する基礎研究報告書2 諸外国における教育課程の基準』(平成22年度 調査研究等特別推進経費調査研究報告書) 国立教育政策研究所。
- ・ Pearson Education South Asia (2008, 2009) *Perfect Match Music Primary 1-6*.

参考 Web 資料

- ・ Ministry of Education Singapore <http://www.moe.gov.sg/> (2014.02.09 取得)
- ・ 財団法人自治体国際化協会 (シンガポール事務所) 「シンガポールの政策 (2011年改訂版) 教育政策編」
<http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/series/pdf/j37.pdf> (2014.06.16 取得)